

会 議 録

会議の名称	第2回豊中市伊丹市クリーンランド余熱利用の基本方針策定委員会		
開催日時	平成25年(2013年)10月21日(月) 午前10時00分～12時00分		
開催場所	豊中市伊丹市クリーンランド 2階大会議室	公開の可否	可
事務局	豊中市伊丹市クリーンランド 総務室 企画チーム	傍聴者数	3人
公開しなかつた理由	/		
出席者	委員	高浪会長、長澤委員、早川委員、石橋委員、奥田委員、廣田委員、宮脇委員、飯島委員、伊庭委員、西村委員	
	事務局	西垣事務局長、田村事務局次長、小菌保全操作室長、道端チーム長、和田企画チーム長、飯野再資源・搬入チーム長、先山再資源・搬入チーム主幹、大槻操作チーム長、津川新炉建設チーム長、赤松新炉建設チーム主幹、加藤企画チーム主査、田辺企画チーム主査、笠井企画チーム主事	
	その他		
議題	1. 開会 2. 報告 余熱利用施設への蒸気及び電気の供給量について 3. 審議 (1) 余熱利用に関する動向調査について (2) 余熱利用施設(クリーンスポーツランド)の運営状況について 4. その他 5. 閉会		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

会長 時間になりましたので、第2回余熱利用の基本方針策定委員会を開催させていただきます。最初に事務局から確認をしていただきたいと思います。

事務局 (配布資料説明、進行に当たっての注意事項)

会長 改めまして、みなさん、おはようございます。会長の高浪でございます。本日はお忙しい中ご参加いただきありがとうございます。みなさんご出席ということで委員会を始めていきたいと思っております。

本日は、傍聴の方が3人いらっしゃいますが、お配りしている資料はお持ち帰りいただけません。後日、議事録がホームページでアップされますので、閲覧いただけるかと思っております。詳細な議事の内容につきましては、そちらをご参照いただけますようよろしくお願いいたします。

それでは、当日配布として本日お配りしましたスケジュールを見ていただきたいのですが、前回、余熱利用に関する動向調査を実施するにあたり、調査対象や調査内容というものをみなさんにご審議いただいたわけですが、今回はそれに基づきまして、余熱利用に関する動向調査を実際に実施するにあたっての確認をしていただくということと、余熱利用施設の運営状況ということで事務局から説明がございますので、それに関して率直なご意見をいただきたいと思います。

第3回は12月中旬頃を予定しておりますが、今回報告を受けます余熱利用施設の運営状況について、どうすべきだったのか、どうすべきなのかというような総括をいただくとともに、アンケートの中間報告が挙がってまいりますので、それに関する報告というのが行われる予定になっております。ですから今日の議論としましては、まず、前回のご質問事項で今回に持ち越したものについて紹介や説明をいただくということと、審議としてアンケート実施についてご確認いただくということと、余熱利用施設、クリーンスポーツランドの運営状況についてご意見をいただくということになっております。

それでは、次第二つ目の報告について、事務局からお願いします。

事務局 前回、委員様からご質問のありました「クリーンスポーツランドでは具体的に蒸気などがどれくらい使われているのか」ということに対してご報告をさせていただきます。

(資料1の説明)

会長 ただいま説明いただきました内容につきまして、ご質問等ございますか。

委員 今の説明で、素人考えですが、煙突からかなり水蒸気が出ていますね。あの白い煙のことです。すべて水蒸気だと思うのですが、その蒸気がどの程度なのかが出てこないのですが、教えていただければと思います。

事務局 今のご質問につきましては大変難しいところでございまして、実質的な発生蒸

気、これにつきまして、まずごみが入ってきて、その発生熱量というのを積算しなければなりません。そこから、今、申し上げました発生蒸気量、概ねこれを除いた分、それ以外が煙突から出ていくという形になりますので、数字的には今すぐお答えできるような内容ではございません。次回にご報告させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

会長 他にご質問はございますか。

委員 売電のほうで取引電力量というのがあるのですが、これは、年間、金額的にはいくらぐらいになりますか。

事務局 正確ではないのですが、約1億円です。

会長 他にごございませんか。

委員 場外利用の分でいくと、リサイクルプラザの電力使用量が大きい。場内利用は21,000(メガワットアワー)で、リサイクルプラザが1,400(メガワットアワー)という数値が出ていますが、これは施設の規模が違うという認識でいいですか。

事務局 おっしゃるとおりで、規模等が全く違うため利用状況が変わってくるということでございます。

会長 他にごございますか。

このご質問に関しては問題ないかと思っております。追加で質問が出た件につきましては、次回、詳しく回答をいただければと思います。また、新たなごみ焼却施設になると、もう少し効率化が進んで、このあたりのことがわかりやすくなるのではと思っております。

事務局 おっしゃるとおりで、もう少し内容的には細かく説明できると思います。

会長 それでは、新ごみ焼却施設で予想されるフローについても次回に示していただければと思います。

事務局 はい、わかりました。

会長 それでは、本審議の内容に入っていきたいと思っております。まず一つ目、「余熱利用に関する動向調査」について、アンケートをどのように実施するかということ資料3で説明いただきたいと思います。

(資料3の説明)

会長 審議の内容としては大きく二つに分かれるかと思います。まず調査対象がこれでいいのかという確認と、調査内容について、事前に実際のアンケート内容をお渡ししてご確認いただいているかと思いますので、気になる点があればご指摘いただけたらと思います。

では、まず調査対象についてご意見ございますか。

委員 確認なのですが、ステップ1で焼却施設を有している施設が1,249施設あり、そのうち余熱利用をしている施設が797施設しかないのですが、残りの450施設は焼却施設の中で全く余熱を利用していないという施設なんでしょうか。

事務局 そのとおりでございます。

委員 その場合、過去に使っていたけれども途中で使わないように変わってしまったとか、そういう可能性はないですか。

事務局 その点につきましては、アンケートの中で回答が得られるかと思っております。

会長 抽出の内容についての質問ですね。

委員 はい。

会長 おそらく、この焼却施設がものすごく小さいとか、定常的に動いていないとか、そういう施設がその500団体に含まれるのではないかと思うのですが。

委員 わかりました。

会長 他にございますか。

委員 言葉だけの確認ですが、ステップ3で余熱を場外に利用しているという、この「場外」というのは、確かにこの焼却施設から見れば、余熱利用施設もリサイクルプラザも「場の外」になるんですが、市民感覚では敷地内に収まっている気がするので、ここでいう「場外」というのは、抽出する中でもここでとらえている言葉と同じ意味で使っている「場外」という認識でいいんですよね、という確認がしたいのですが。

事務局 今ご質問いただいた中で、敷地内というような取り方で、この調査内容では定義づけ等がございません。ですから焼却施設、それが「場内」、これに対してそれ以外が「場外」という認識であります。

会長 このフロー図と同様ですので、焼却施設が「場内」、焼却施設外で何か違うもの

に使っているというのが「場外」というようにご理解いただけたらと思います。

他にご意見がないようでしたら、抽出条件については了解いただいたということでご異議ございませんでしょうか。

各委員 (異議なし)

会長 それでは、最終的にアンケートをお配りするところの選定については、これで了解いただけたということで先に進めたいと思います。

次は調査の内容です。実際にアンケート案をお配りしておりますので、そのアンケート案や、資料3に書かれている小項目で、気になる点、または不足している点等があればご意見いただきたいと思います。質問の数が45個となっております。若干多い気はするんですが、みなさんからご意見をいただきました内容や、今後の資料としてどのように見ていくのかということを考えますと、質問数が多いのはしかたないのかなとは思っております。ですから減らすという方向ではなく、足りないものがあれば足していただきたいと思っています。また、何か体裁等で問題があればご意見いただければと思います。

委員 問29の交通機関について、やはり余熱利用施設のアクセスの問題だと思います。鉄道だと、すでにレールが敷かれているので、なかなか変更されることはないと思います。バスの場合、やはり一般の方が来られることがとても大事になってきます。ここではバスの利用状況しか書いてありませんが、運営の形態でバスがどのように運行されているのか、それがやはり大事になってくるのではないかと思います。あとで運営部分のところで質問しようと思っていたのですが、クリーンランドに曾根駅から1時間に1本バスが来ています。一般の方があまり利用されているわけではないと思います。それで、バスをもし使っている場合には、運営の形態が自治体なのか民間なのか、あるいは民間のバス会社が自治体から補助金を受けて運営している場合や、施設自体で保有されている場合もあるかと。そういった質問も一つ必要ではないかと思います。

会長 ありがとうございます。実際に施設がシャトルバスのようなものを運営している場合や、民間が自由に運行している場合もありますし、コミュニティバスのように意図的に来てほしい所にくるくる回している可能性もありますよね。それではこの欄の事業主体、すなわちどういったものでバスが運営されているのかということがわかるようにしていただければと思います。

他にございますか。

委員 私は地区の代表として参加しておりますが、地区のこの周辺の方の考え方を重要視して今後進めていくのか、それとも、私自身はこの施設そのものが大変な赤字であると思っているのですが、それでは運営状況に問題があると。どちらの考え方を採るのか。両方の考え方を採れるようなものがあれば一番いいのですが、

やはり、全く赤字で今後続けていくことはできない。考え方のどちらを重要視することになるかと。私にすれば地域の人に喜んでもらえればうれしいわけです。でもそれではやっていけない。ここで、できるだけ両方の考え方を活かせるようなもの考えたらいいですか。そのあたりはどうなのでしょう。

会長 そのあたりの質問は問 44 と問 45 にあります。問 44 「貴自治体の余熱利用施設等は、地域との位置付けはどの様にされていますか」という質問ですね。そこで、地域還元を優先していますよとか、地域還元は関係ないですよとか、そういった質問が入っております。問 45 は「余熱利用以外に、ごみ焼却施設に関連する地域還元施設又は施策等がある場合、どういうふうにしていますか」と聞いており、そこで各自自治体がどのように思っているのかということが抽出できるかと思っておりますが、もう少し詳しく聞いたほうがよろしいでしょうか。

委員 回答が出てきた場合に、それでは地域を重視しますよと行って、ずっと運営していけばいいんでしょうか。今後、仮に施設を造るとして、地域を重視しますと結論づけた場合に、採算は度外視して地域の方に喜んでもらえる施設ばかり考えて進めていけばいいんでしょうか。

会長 そこは今後の議論ということで、今回はアンケートをどのように取るのかですので、クリーンランドだけではなく、他の自治体がどのように考えているのかという意見が抽出できればいいと思います。ですので、今日の議論はこの施設がどうあるべきかではなく、他の施設や自治体がどう思っているのかということをお話し合いましょう。その意見を聞くための質問事項というのを吟味しましょう、という会議です。

委員 それはわかるんですが、他の地域のそれを聞いて、今度、施設を造るとなったときに参考にするわけですか。そうすると、他の地域の方を重要視するような意見を聞くわけですから、あまり私ども地元の意見というのは必要ないという意味ですか。

つまり、たとえば私が地域の人に「今度こういう施設ができますよ」と報告をします。今のこの施設ができるまで、ここに土地を持っていたような人もおられるわけです。そうして市に、こういうごみ焼却施設を造るために代々の土地を提供した、というのは失礼な言い方かもしれませんが、つまり協力したんだと。そのためには、やはり、多少地域のために何かしてほしいなという気持ちを持っておられるかもわからない。そういう方を中心に考えて、こんなふうに施設を造りましたというなら納得いくかもしれませんが、赤字だから他の人が喜んでもらえるものを造りましたとなった場合に、私が地域に帰って説明するのにどうしたらいいんでしょう。地域みなさんが納得いくために「やはり採算のほうが大事だから、みなさんでこの施設を赤字のないようにしましょう」と決まったんです、と言われれば、私はそのように説明します。そのあたりがモヤモヤモヤモヤして、

地域で説明してほしいと言われても、私ほうまくできません。

会長

これはあくまでもアンケートですので、他の自治体がどうしているのかを参考にしましょう、ということですよ。そこで実際ここはどうすべきかというのは、この委員会、また地元連絡会議もございますので、みなさんと議論していきながら一番いいものを、たとえば参考にできるものがあればすればいいでしょうし、参考にできるものがなければ、私たちが作りあげていくしかないと思うんですよ。その地域のみなさんがどのように考えていらっしゃるかというのを抽出したほうが議論が活発になるというのであれば、アンケートとかヒアリングを自治体の連絡会議で行っていただくということは可能です。実際にここに住んでおられる地域のみなさんが考えていらっしゃるご意見ということで、それが一つの資料として施策の議論の場に挙がってくれば、いっしょに議論ができると思うんです。地域のみなさんがどう思っておられるかというのは、地元の各団体からご出席ただいて代表としてご意見をいただくことにはなっていますが、地域のみなさんの総意かどうかもわからないので、アンケートやヒアリングを行って、みなさんがどう思っているのかが客観的にわかるようなものを資料として集めることができれば非常にいいのではないかと。今ご提案されたお話というのはそういうことだと思っんですね。

日本全体がこう言っているから、ここはこうしますと言っているのはおかしいという部分があります。地元根付いた施設ですので、地元の方がどのように考えていらっしゃるって、周辺に住んでいらっしゃる方々はどのように思っいらっしゃるのかということもありますので、そういったことも加味するのが今回のこの会議の趣旨だと思っしております。全国的な動向についてのヒアリング、アンケートについてはこれで網羅できるんですが、実際地域に住んでいらっしゃる方、市に住んでいらっしゃる方の意見をうまく抽出、この順位だけではなかなか抽出しきれないこともありますので、そのあたりをどうすればいいのかということは、また後で議論していけばいいかと。ですので、次回以降、議題にさせていただきますと思っしております。

委員

そうすると、地元の意見もひょっとしたら参考でここに取り入れられる可能性があると思っしてよろしいでしょうか。

会長

そうあるべきだと私は思っますが、みなさんはどう思っられますか。

委員

私も先ほどのご意見に賛成です。やはり地元というのは、土地の提供等かなり協力しているわけです。我々の団体もそうです。近隣の農家の組織ですので、土地の提供等いろいろ協力させていただいたんです。そういうことも含めて、やはり地元何らかの、還元施設であるかそれは別途ですけれども、やっっていたきたいというのが我々の率直な気持ちです。一般市民の方もいろいろあるかと思っますが、それはそれで議論していただきたいと思っしています。

委員

私も、地域でもアンケートなどやっいただきたいなと思っしています。やは

り他の方も関係あることですので、みなさんで意見をいただいて考えていきたいと思ひます。

委員 私も自治会を代表してここにおりますが、自治会のみなさんの総意を聞いたわけではなく、ごく一部の方の意見を聞いてここにいるという状況です。やはり、地域のみなさんが言われるのは、早い話、施設は何でもいい、と。要は地元へ還元さえてくれたらいいんだというようにおっしゃる方もやはりおられますので、そのあたりはさきほど会長がおっしゃいましたように、アンケート等をしていただひてみなさんの意見を聞いていただけたらと。もし何か施設ができたとしても、クリーンスポーツランドでは地元は入場料が割引されるということがありましたが、それなりのウエイトをとってそういうことをやっていただきたいと思ひます。

委員 私の理解では、どういふ順序でものを進めるかということだけなんだと思ひます。例えば、この委員会を始める前に地元へ意見を聞いて、どんなことをしたいですかと聞いてから調査をするのがいいのか、そうではなくて、ここは余熱利用施設としてプールがありますが、全国でプール以外にどんなアイデアがあるのか聞いたうえで「面白いな」といふものが3つくらいあったら、それを地元の方に「他の自治体ならこんなものを運営しているらしいですよ。もしこんなものを取り入れたらどうですか」と聞いてみるのか。そのためのアンケートではないかと私は理解しているので、順序的には、アンケートを聞いて、それをもって地元へ諮るといふ流れではないかと理解しています。ただ、いいアイデアがなかった時にどうするかという問題や、あるいは同じプールでも、成功している所と失敗している所もあった時に、果たしてまた引き続きプールにするのかなど議論はあるのかなと思ひますし、前回私が発言した、果たしてその地元還元が余熱利用だけでいいのか、そうではなくてテニスコートのよな、全く余熱と関係ないものもありうるのかと、そこの議論はあると思ひますが。

まずアンケートで全国的なアイデアを我々も認識して、そのうえで委員会なり地元なりと議論していくのかなというように思っていますので、その順序に従えば、まずアンケートなのかなという前提で参加させてもらっています。

委員 さきほど言われたように、私もアンケートの結果を受けて議論していくというように考えておりました。地元の方も本当にいろいろとご協力をいただひておりますので、そのご意見もいただきながらアンケートを行って、その結果が出たあとの話し合いと考えております。

委員 私も基本的に同じ意見で、できる限りみなさんの声を集めるのが重要なこと。近隣の市民の方もそうですし、伊丹市民、豊中市民、いろいろな方の声を集めてこの場でアイデアを出すというのが最終的なゴールかなと思ひています。

委員 やはり地元の理解というか、そういったものが大切になってくると思ひます。

近隣の地域の方々の意見もありますし、豊中市民、それから伊丹市民としての全体的な意見、その2通りの部分が出てくると思います。私は策定委員会の委員になりまして、余熱のいろいろな利用というのをホームページで見えておりました。ある市では余熱を使った高齢者のケア施設を運営して、その交通手段はシャトルバスという形にすることによって、近隣からもお年寄りの方、歩きにくい方がシャトルバスに乗ってこの施設に来られます。運営状況は高齢の方の利用率が高いという部分がありますが、交通の便がある程度確保されると、経費を伴いますが、そのプラスアルファで、スポーツ施設の設備を併設するなどすることで、近隣以外の方々にも来ていただけ、ある程度収支のバランスが取れるのではないかなと思います。

委員 このアンケートの結果で、全国の他の焼却炉の余熱がどのように還元されているかわかると思うんですが、それを基にクリーンランドにおいてはこちらの地元の方とのやり取りをする必要があると思っています。現在、地元の方にどういう形で還元されているかという資料はないんですか。

会長 それにつきましては、また次の議題で説明がございます。

委員 今現在、ご意見を預かっておられる話がありましたが、それはどういう意見なのか知りたいなという気持ちはありましたが、だいぶ、負担が地元の方たちにも周辺にもあると思いますので、やはり地元に戻元する施設を、と思います。

会長 ありがとうございます。今後の議題になっていきますが、流れとしては、地区の方、または市の方、関連する方もしない方も周辺の方も含めてご意見をいただきたい。そのための資料として、今から調査を行うような客観的な資料と、次の議題になりますが、このクリーンスポーツランドというのがこれまでどういった経緯をたどってきたのかというところを客観的に見ていただいて、それからみなさんがどう思っているかというご意見がいただければという流れで進めていきたいと思います。ですので、実際に地域の方へのご質問、アンケートというのが次年度くらいになると思います。それに先立ってのアンケートですが、全国的に何かモデルケースとか、似たような所がないかというものが抽出できる質問になっているかどうかをご議論いただきたいと。

委員 調査内容の項目は確かに多いと思いますが、235 団体ということで、回収率はどれくらいを考えておられますか。

会長 基本的には自治体から自治体への依頼ですので、ほぼ 100%を見込んでいるということです。ただ、期日が迫ってしまうと回答率は上がりませんので、回答期限としては1か月程度。そうすると、策定委員会のスケジュールで12月中旬に次回がございますので、その時点にはおそらく間に合いません。ですので、すぐア

アンケートが返ってきたものに関しては第3回に中間報告としてお示しできると思いますが、基本的には第4回、来年の2月に行われるこの委員会の時にはすべてのアンケートが回収できて、解析された結果をお示しすることができると思っております。

他にございますか。

委員

行政間のアンケートというものが、どれくらい細かく聞くものかわからないんですが、参考資料2の4ページのところにある問3で、発生した施設での利用というのが「場内」ですよね。発生した施設以外での利用というのが「場外」で、その利用形態について施設名をまず回答するようになっていますが、これでは場外利用がまず施設ありきのように読めてしまうので、施設利用以外の場外利用もあるのではないかという気がしないでもない。それについては③の「その他」の項目で回答してもらおうという意図だと思うんですが、上から順に見ていくと「その他」にたどり着く前にどうだろうなと思うのが気にかかるという細かい話ですね。

もう一つが、②の施設名の箇所で、種類や規模に加えてその施設が何年に造られたかというのは必要ではないかと。おそらく公共施設というのは、たとえば1980年頃にはこういうブームがあって、90年頃にはこういうブームがあって、この頃にプールがたくさん建設されたとかいう傾向があるはずなので、その施設はいつ頃検討して造られたというのは必要だと思います。

もう一つが、さきほどご意見があった交通の話とも重なるんですが、たとえば北海道のどこどこの清掃工場からアンケートが返ってきたとして、その内容だけではその清掃工場がどういう場所にあるか、イメージがつかめないんです。周辺地域というのがすぐそばにあるのか、山の中にあって何キロも先にしか民家がないのか、隣の家というのは車で何分か行かなければならないような場所なのか、まちなかなのか。イメージがつかないので、そういったことを調査の中で聞くのか、あるいは別途、必要に応じてたどるのかということだけなんです。また、その結果がでた時にその地域性というものを我々がどう見ていくのかということが気にはなります。それに関連すると、15ページの一番最後の「余熱利用と地域の位置付け」でいう「地域」というのもとらえ方が異なると思うんですね。「地域」という一語でいいのかなど。言葉だけで解釈するのであれば「施設の周辺地域」といった言い方をするのか、それともあらかじめ地域というものをいったん定義するのか。つまり清掃工場として周辺の地域というものを、市内全域ではなく「地域というものはここ」と位置付けているのかというのをあえて聞くのか聞かないのか、それが気になったところです。

会長

まず1つ目のご質問で、問3、いつ施設が竣工しているとか運営が開始されたのかという欄は加えていただけたらと思います。あとは施設ありきという点ですね。場外利用では売電が多いかと思うので、売電は3番ではなく2番かもしれません。これについては考えさせてもらいます。もう少し答えやすい方法があるな

らそのように修正をしてみます。

2つ目の地域性ということですが、アンケートを実施してもどんな施設かわからない、というようなご意見が第1回の議論の時にございましたので、パンフレットを送ってもらうことにしています。そこで気になる施設があれば、パンフレットを見れば、その施設がどんなもので、どんな焼却炉で、どんな余熱利用施設で、ということがわかるのではないかなと思っております。1ページに記載していますが、わかりにくいということであれば、もう少し工夫をするようにいたします。

3つ目の「地域」という語の定義に関しては、これも少し考えていきたいと思っております。「地域」という言葉がたくさん出てくるんですね。そのあたりの定義を、はじめの方、1ページ目で、出てくる用語の説明をさせていただいて、なぜアンケートを実施しているのかということについて、もう少し詳しく書かせていただいて、こちらの状況もお示ししたうえでアンケートにご協力いただくことにさせていただきたいと思っております。

委員 今のご回答で気になったのは、本件にとって場外か、場内か、敷地内かといった質問がありますよね。ですから、そのアクセスだとか、駅からどのくらいの距離にあるのか、周辺の地域状況はどうなのかということは、パンフレットで理解できるならこだわらないですし、逆にやはり調べる必要があるなら調べていただくのは全くかまわないんですが。

会長 具体的にこういう質問を加えればそれが網羅できますよ、というようなアイデアはありますか。

委員 施設周辺の状況の質問を加えればいいのではないのでしょうか。近隣の、たとえば自治会とか町内に相当するものがどこにあるのかという質問でもいいですし、山の中にあるのか、まちの中にあるのか、海のそばにあるのかというようなざっくりした概況を設問として加えるというのは、イメージとしてあるかなと思いません。

会長 わかりました。アクセスについての質問はいくつかあるんですが、それだけでは抽出できないようであれば質問を加えたいと思っております。特にその交通機関、その質問のあたりに、実際置かれている施設がどういった位置関係にありますか、というような質問をすれば網羅できるかもしれませんので、ご指摘をいただきましたように質問を考えてみたいと思っております。他にご意見ございますか。

委員 今後、地域の方にヒアリングをするという話があり、どのタイミングでどういう質問を入れればいいのかというコメントになったんですが、現状のクエスチョンが一問一答になっていて、回答を見た時に、この団体はどのような考え方を持っているのかということがわかりにくいのではないかという心配があります。たと

えばこの団体は何を重要視しています、ということがわかるような優先付けを
してもらうことで、地元住民を一番大切に考えているとか、もしくは収支が成り
立たなければだめなのでそちらが優先と考えているとか、その他、交通の利便性
というような全体の考え方がわかるような設問を設けて、できればコメントを書
いてもらえると、その団体の考え方が理解できるのかなと思いました。

会長 わかりました。回答の方法については一つではなく、複数回答や順位回答に替
えられるものがあればということですね。

委員 もう1点なんですが、前回、私が質問した時に、この大項目4「今後」に関連
するんですが、電力とかサービスに取り込んだ例がないかという質問をお願いし
ていたと思うんです。それが4の、今後そのサービスはどういう点に特色がある
かというようなことをヒアリングする項目があれば、もう少し具体的に書いてい
ただけるかなと思いました。

会長 具体的には問を足したほうがいいですか。

委員 そうですね。

会長 わかりました。発電したあとの出先ということですね。

委員 はい。発電した後に、その電力をどういうふうにアイデアを持っていくのかで
す。

会長 売電以外にやっているところがあればということですね。

委員 そうです。

会長 わかりました。その他ございますか。

今ご意見いただいた内容につきましては、早急に修正してアンケートを送らな
ければいけませんので、事務局と私に一任いただきたいんですが。いただいたご
意見に関しては必ず反映させるようにし、次回には実際に送ったものをお示しで
きると思いますので、ご了解いただけますでしょうか。

各委員 (了承)

会長 ありがとうございます。それでは、余熱利用に関する動向調査の実施について
の議論は終了とさせていただきたいと思います。また、一つだけ網羅できていな
い先進的な取り組みの調査は、別途行いますので、これに関しては中間報告の時
に何らかのご報告ができるかと思っております。

それでは時間も1時間ほど経過しておりますので、5分程度休憩を取らせていただきたいと思います。

(5分休憩)

会長 それでは次の議題ですが、クリーンスポーツランドの運営状況についてということで、資料2を事務局に説明してもらい、率直なご意見をおうかがいしたいと思います。さきほどもお話がありましたように、実際に今後どうしていくのか、どうあるべきなのかというのは今後の議論になりますので、今日はまずこの資料を見ていただいて、率直に運営がどうだったのか、どうなのかというところをご意見いただきたい。その先のことについては今後の議論ということで、今回は触れずに進めていきたいと思います。それでは事務局から説明をよろしく願います。

(資料2の説明)

会長 一つ前の議論で、委員から地域の方への還元というお話をいただいておりますので、事務局から補足で割引等があったのかどうか説明いただけますか。

事務局 地元の方については半額利用という形にさせていただいております。

会長 事業形態のページの金額の欄には記載されておりませんが、地元の方にご利用いただくように半額になっているということですね。施設があり、それを地元の人にご利用いただきたいので半額になっているということでございます。

それでは、この資料について何か不足しているところ、おかしいのではないかと、ご意見やご質問等がございましたら、まずおうかがいしたいと思います。

委員 資料の12ページですが、施設周辺地域の人口の推移というところで、伊丹市側は岩屋、口酒井、森本、これはいわゆる神津地区ということで我々は認識しております。その中で桑津地区が抜けているんですが、これは何かあるんでしょうか。

事務局 2キロ圏内という判断において、その延長線にかかっている、かかっていないという部分で若干整理させていただいた経緯がございます。

委員 半径2キロメートル圏には入っておりますが。

事務局 すべてが圏内にすっぽり入っている地域を集約したということで、一部がかかっているという地区に関しては外させていただきました。念のため改めて確認いたします。

- 委員 この利用者のところで、男性、女性の割合は出ていないんですか。
- 事務局 男女比に関しましては集計等は行っておりませんので、不明という形になっておりますが、感覚としては男女半々くらいと考えております。
- 委員 収入で、いわゆる正規料金を払った人数、割引料金を払った人数というのはわかるのでしょうか。
- 事務局 来館された方の料金の内訳というのは把握しておりますが、一覧表としてお手元にすぐ出せるものがございませんので、次回ご提示させていただければと思います。
- 会長 時間もございませんので、資料については他にご意見がなければこれでよいということで次に進めたいと思います。それではみなさんから、率直にこの資料を見ていただいてどのようにお思いになったかということで、お一方ずつおうかがいしたいと思います。
- 委員 率直に言いまして、施設を運営してきた趣旨は非常にいいと思うんです。当初の目的として、いろいろ還元するということでスタートされたと思いますが、実際この経営状況を見ますと、年間 8 千万円の赤字ということで、なかなか厳しい状況かなということが、まず第一印象でございます。その経営努力というか、資料の 18 ページに「利用者増に向けた取り組み」という表が出ていましたが、毎年いろいろな PR をされたり、販売促進をされたりご努力はされているんですが、結果的にはやはり 8 千万円くらいの赤字が出てくるとなると、地元還元等といわれても経営的に非常に厳しい。継続は厳しいという状況になってくると思うので、今、このアンケート調査をして、最終的にはいろいろ議論をして具体的な形を検討していくんですが、やはりこの経営が、また赤字につながれば何をしても非常に厳しい状況になってくると思いますので、何か思い切った、例えば民間に完全に委託というか、渡すとか大きなやり方をしなければ、小手先だけの経営努力だけではうまくいかないのではないかなと。特に周辺地域の類似施設はやはり利便性がいい所にありますので、どうしてもお客を取られてくる。ですから、何か施設の特徴を生かしてお客さん呼び込む、そしてうまく経営するということになると、なかなか公共では難しいのではないかと。一部委託はされていると思うんですが、思い切った民営化というか、そういったことも視野に入れていかなければいけないのかなというのが、感じた意見でございます。
- 委員 利用者数で、一番多い時は 14 万人ですかね。一番少ない時が平成 24 年で、それでも 10 万人は来られているわけです。そして金額はというと、その人数の減りの割には収入がえらく少ない、多い時の半分以下です。どうしてだろうと思って

いましたら、大人の収入が少ないとかいう説明がありましたが、ひょっとしたら普通というか高収入の方に利用してもらえばもう少しましになるのではないかなと。単純な発想ですが。また、車を一台購入してバス代わりにお客さんと呼び込んだほうが、ひょっとしたらもうかるのではないかな。そんなところがありそうな気がするんですけども。

委員 利用者数が年々減少しているということですね。たとえばこの地区でしたら中小企業が結構多いので、中小企業の厚生施設としてジムやプールを利用していたくのも一つの方法と思いますし、また、人集めのためには、やはり何かイベント、例えば野菜を販売したり、そういうことをされてはどうかと思います。来てもらわなければ収入が上がりませんのでね。また、今の施設には食事をする所がありませんでしょう。そういうのもちょっと考えていただいて、一日中過ごせるような施設にさせていただいたらいいのではないかなと思います。

委員 この施設ができた当初、一番上の階が食堂、下がプール、その下にジム、あとはサウナ、浴室、そういったものもあったと思うんです。その設備ごとの利用状況というのがこの数値には出てきていないので、プールばかり利用しに来たのか、ジムの専門的に利用されているのか、そのあたりがわからないので、特化したような施設を造るにしても、何を利用する人が多いのかそういうことが見えてこないんですが、周辺の施設を見ますと、やはり最近ジム、利便性で立地等を考えていますが、誰もが利用しやすいし、クリーンランドの場合、これだけ駅から離れた所ということを考えますと、やはりここでは電気を発生することができて、温水が供給できて、それから蒸気が使えらるとなると、そのあたりを含めて考える必要があるのでは。このあたりで集客がある施設というとスカイパークがありますよね。少年野球で何度か行ったことがあるんですが、飛行機が見えるから人が来るということを考えれば、ちょっと奇想天外かもしれませんが、このエリア一体を、極端な話、スカイパークの売店、食堂などあのあたりも全部ひっくるめて、電気とか温水とか全部こちらから提供しますからというように、一体的に開発できるようなことを何かできたらいいのではないかなと思います。

会長 ありがとうございます。施設内で何を利用されていたのかわからないというご意見がございましたので、次回お示しいただきたいと思います。

委員 確認したいんですが、この資料2というのは委員会用の資料なのか、それともこれを取りまとめてクリーンランドとして一般に公表するようなことを考えている資料なんでしょうか。

事務局 こちらの資料は策定委員会の参考させていただく資料ということで、クリーンスポーツランドのことをまとめさせていただきました。これを以てホームページにアップするなど、そういった用途で作ったものではございません。

委員

それを受けて質問します。2ページに施設の料金形態が記載されていて、割引についても、たとえば地元の方の割引、バスで来られた方の割引、それからクリーンランドの施設見学に来られた人に割引券を配っておられたというのもあると思うんですね。何種類かの割引があるという前提で単価の話が出てくると思うんですが、そこで私がさきほど、割引料金等を払った人数がわかるのかとおたずねしたのは、たとえば600円を切る単価になっているとしても、何が要因なのかがわからないんですね。高齢者が多いからか、それとも地元の方が割引でたくさん使われているからだとすれば、ある意味赤字でもいいことかもしれませんが、そうではないのかそれも判断がつきません。一方、バス利用者への割引や、施設見学者に配布した割引券利用というものが増えているのかなど、ニーズ調査というか、そこをやはり分析する必要があるのではないかと考えております。

もう一つは、後半の14ページと関係していたと思いますが、二ノ切温水プールや豊島温水プールなど、いわゆる公共施設を運営されている方と最近お話をすることがあって、言ってみればクリーンランドよりアクセスはだいぶいいという、それらの施設の方も言っておられたのは、豊中市の公共プールというのは開館時間が夜の9時までらしいんです。クリーンスポーツランドは9時半のようですが。そういったプールというのは、あとせめて1時間でも遅くまで運営をしないと、民間施設は365日開いていて、夜の12時や1時まで利用できてというように、アクセスの問題というより開館時間の問題として課題を持っておられるようなことをおっしゃっていたんですね。14ページの一覧表を見ましても、ここ10年間で新しくできた施設はほとんどがジムですよ。それにプールなんか併設されていて、それがたまたま駅の近くにあるかどうかの話です。だから、サラリーマンの方は週末利用するのではなくて、平日の夜遅い時間の会社帰りに利用するということです。そうして休みの日にも行こうとなれば、固定月謝なので、やはり月謝を払っているところに行くというふうになる。ここの利用策というのもありますが、19ページにまとめておられる3つの整理ですよ。アクセスと利用と収入状況以外に、いわゆる一般の市民というか、豊中や伊丹にとらわれない社会状況の変化として、そういう形にプールやジムの利用が変わってきているのではないかと思います。具体的に言うと、駅前で夜9時以降に利用しなくていい方が、必然的にクリーンスポーツランドの利用の中心になってくるということで、そこに問題があるのではないかなと私は理解しております。

委員

営業形態で、これだけ料金がかかるということを全く知りませんでした。割引があることも知りませんでした。やはり市民へのPRというか、いろいろとされているようなことをここで書かれてはおりますが、それが浸透していたかという点、やはりなかったように思います。私は伊丹のフィットネスタという施設に近い所に住んでおまして、歩いても行けるし、ご高齢の方ならバスで行けるということで、自治会のお食事会に来られている女性とお話することが多いのですが、フィットネスタのプールなど、ちょっと遊びに来ているよとか、散歩

がてら来ているよとかいう方が結構いらっしゃるんです。やはり交通の便といいですか、近くの方が、便利な所がいいなというふうに思われるんでしょう。

もう一つ、女性は食べることが大好きですから、たとえばおいしい料理のお店やレストランがあれば、あそこを目指して行ってみようかというようなこともあるのでは。クリーンスポーツランドのオープン時、レストランが開店しました時に、とても期待して食べに行っただけです。でもいまいちだったものですから、行きにくいなあ、という感じでした。そういうことも考えていただいて、いろいろ営業努力はできるのではないかなと思います。

委員 開館してから15年分の収支を見ると、なぜもっと早く営業停止にならなかったのかなという疑問を持ちました。初年度、3年目、このあたりでもう赤字額が一億円ぐらいなのはすごく深刻な状態だったのではないかなと。この時点でもっとPRの仕方を根本的に変えるとか、対策が必要だったのではないかなと思うんです。気になったことは、平成25年度以降は休館ということで、歳出としてはゼロになるのか、何かの歳出がある状態なのかということです。

会長 ご質問いただきましたのは、今後、施設を運営するしないにかかわらず、どういった経費がかかってくるのかということですね。もし、イニシャルまたはランニングでコストがかかる、運営はしていなくてもランニングでかかるのであれば、次回以降に示していただければと思います。

委員 やはり、これだけ赤字が出ているということで、根本的に発想を変えてやっていかなければなかなか難しいのではないかなと思います。たとえば、バスも1日9便くらい動いていますが、私が曾根駅で降りた時、人がほとんど乗っていない、クリーンランド行きバスを見かけます。発送の転換として、伊丹の市バスが曾根駅まで行き、阪急バスが伊丹駅まで行くことにすると、本数が増えたりすると思います。実際は経路の問題等で難しいところはあると思います。やはりこの場所の立地を考えると、今の形のままで再開は難しいと思います。他の施設を例にとるなら、高齢者を対象とするなどの施設を考えると、デイケア施設を考えると、あるいは伊丹のいろいろな施設が近くにあるので生涯学習の教室をどんどん開くとか。そういったことを考えていかなければ、豊中駅から曾根駅で一回降りてバスで2キロ行くだけの魅力があるのか、と。近隣の方にはご利用いただけますが、採算を考えると他の地域からも利用客を呼ぼうとすれば、なかなか難しいのではないのでしょうか。私は最近、民間のスポーツ施設に行っています。ジムだけではなくて、すごくいろいろな教室があります。スポーツ施設に来る目的は、一つだけではありません。ジム目的の方はそれで帰られる。教室が目的の方はそれで帰られる。プール目的の方はそれで帰られる。実際に話を聞きますと、お風呂に入るためだけにスポーツ施設に入られた方もいます。ニーズが多様化しています。ですからこのニーズの多様化に果たして追いついていけるのかどうか。そういった部分を考えていかないと、今後再開したとしてもなかなか難しいので

はないかなと感じます。

委員

私も気になったのが、休館になったことによって歳出が減った部分がどれくらいあるのかなということと、17 ページの周辺の施設について、「販売促進としてこれらの施設との連携を模索してきましたが、各施設の内容が異なり、集客において相互利用を図るには共通性が低いことから、これまで大きな連携を図ることができていない状態です」と書いてありますが、伊丹のスカイパークに年間 50 万人も来られていて、クリーンスポーツランドにはとても近い施設ですので、なんとかうまく連携を図れば、もう少しうまく利用していただける何かがあったら、施設を仮に再開するにしてもここまで赤字にならないのかなあということも思ったりしました。

会長

おおよそみなさんのご意見は一致しているかと思うんですが、利用状況または収益が伸び悩んでいる原因としては、場所もありますし、コンテンツというか魅力的な部分がなかったのかもしれないこと、PR であるとか、伊丹スカイパークとの連携というか、スカイパークは魅力があるということで、周辺以外からも車で年間 50 万人も来られているということですから、そういった施設との連携や、または周辺にあるような企業とのコラボの可能性など、いろいろな視点から考えられることについてご意見、ご感想をいただきましたので、これを踏まえつつ、次回、総括に移っていきたいと思っております。何か総括するにあたって、ぜひここは論点に加えていただきたいとかご指摘いただきたいんですが、何かございますか。

委員

運営に関してですが、どういう体制、組織で行ってきたかという部分のデータなり分析を加えられたらいいかなと思います。営業停止までどういったプロセスで休館の判断に至ったのかとか、このあたりの PR の仕方がまずかったとか、そういった分析の情報がありません。

会長

ありがとうございました。初期の頃はレストランがあつて、途中からジムが拡張したりというような施設の流れもあるかと思えます。そのあたりもデータとして加えていただいて、総括できるようにみなさんに資料をお示ししてもらいたいと思います。

会長

本日の審議については以上で終了いたしました。本日、ご意見いただきましたが、議題の定義でありますとか、次回こういったことを話していただきたいというようなことがあれば、ご提案をいただければと思いますが、何かございますか。

最初にもお話ししましたが、第 3 回は 12 月中旬、最後にお話ししました余熱利用の運営状況の総括とアンケートの中間報告を予定しております。

それでは最後に事務局から事務連絡をお願いします。

事務局

ただいま高浪会長様からございましたが、第3回策定委員会の日程につきましては12月の開催を目途に考えており、委員のみなさんには日程調整をさせていただきたいと思っております。また、アンケートにつきましては早急に修正し、会長様にご確認をいただいてまとめたいと思っております。事務連絡としましては以上になります。

会長

今回の議論につきましても、また議事録を作成しましてみなさんにご確認いただいたうえで公開にさせていただきたいと思えます。第1回ではバタバタしましたが、今回は早めに議事録を作成してみなさんに報告できるのではないかと考えております。

それではみなさん、本日は長時間ご審議いただきましてありがとうございます。また何かございましたら、私、または事務局に連絡いただければと思えますので、よろしく願いいたします。それでは以上とさせていただきます。ありがとうございました。